

三内丸山通信

第三十五次発掘調査の成果

今年の調査（第三十五次調査）は、五月二十五日から九月三十日まで、遺跡西部にある西盛土で行いました。縄文時遊館の北側に調査区を設定し、昨年に引き続き、西盛土の南東部分を詳しく調べました。

盛土とは？

三内丸山遺跡では、一定の範囲に土やさまざまな道具が捨てられ続けた結果、小山のように盛り上がった場所を盛土と呼んでいます。西盛土は、平成六年に実施した試掘調査で見つかりました。これまでの調査から、遺跡内にある盛土の中で、最も広い面積であることがわかっています。また、西盛土が作られた年代は、地層に含まれる土器の特徴などから、縄文時代前期末（約五〇〇〇年前）～中期末（約



【新たに確認された盛土の地層】

から、盛土を特徴づける赤土（ローム）と土器を含んだ地層が、約一・五mの厚さで堆積していることが新たに確認さ

四〇〇〇年前）にかけての約一〇〇〇年間であることがわかっていきます。



【盛土の地層が新たに発見された地点】

範囲の確認

昨年の調査で、西盛土の範囲は東西約六〇m、南北一・二〇m以上に達することがわかりました。今年度は、丘陵の一番高いところで見つかった道路跡の周辺とムラの中心部に面した東側のゆるやかな斜面を発掘し、西盛土の東側部分の広がり調べました。その結果、丘陵東側に位置するゆるやかな斜面

れました。今回見つかった盛土の地層は、一昨年に調査した中心部とは異なり、木炭や焼け土がほとんど混じっていません。地層の中から、中期初頭（約五〇〇〇年前）～中期後葉（約四二〇〇年前）の土器や石器、三角形土製品が出土しました。



【西盛土から出土した土器】

墓との関係

これまでの調査では、西盛土から子どもの墓（埋設土器）が多数見つかっていました。今回の調査でも、子どもの墓が二ヶ所で見つかりました。西盛土は、お墓を作る場所でもあったと考えられます。また、丘陵の一番高いところの東側、西盛土の南東の端付近では、新たに大人の墓

が一ヶ所見つかりました。すでに丘陵の一番高いところの西側では、大人の墓が南北に並ぶ様子が確認されています。また、東側にもお墓の列や道路跡が見つかる可能性が出てきました。



【大人の墓の調査状況】

地面を削って作られた道路跡が見つかっています。今回の調査では、道路を作る際に削り取られた土に関するデータを集め、盛土に含まれている赤土（ローム）と比較しました。その結果、盛土の地層には、道路を造った際に削り取られた土と同じ性質の土の塊が多く含まれていることが確認できました。今年度の調査で発見された、木炭や焼け土をほとんど含まない盛土の地層は、一度に大量の赤土（ローム）がまとめて捨てられた特徴が確認されています。地層の堆積に大規模な土木作業からの影響が考えられ、西盛土の成り立ちを解明する上で、貴重な手がかりを得ることができました。

土はどこから運ばれた？

西盛土の南の端付近には、

平成23年度 第2回企画展

ミニチュア土器コレクション

平成23年11月26日（土）から平成24年2月26日（日）まで、第2回企画展として「ミニチュア土器コレクション」を開催しています。

三内丸山遺跡からは、2500点を超える多量のミニチュア土器が出土しており、日本最多の可能性がります。

この企画展では、ミニチュア土器にクローズアップし、展示を行っています。





縄文遺跡群世界遺産 シンポジウムを開催

特別史跡三内丸山遺跡をはじめとする「北海道・北東北を中心とした縄文遺跡群」の世界遺産登録に向けて、縄文遺跡群世界遺産登録推進本部（北海道、青森県、岩手県及



【シンポジウムのようす】

び秋田県並びに関係市町で構成）では、去る九月二十四日（土）、国内外の専門家を招いて青森市内で国際シンポジウムを開催しました。

シンポジウムでは、まず、文化庁記念物課世界文化遺産室の園邊邦輝室長補佐より、世界遺産登録までの流れや世界遺産登録の近年の動向について講演があり、その後、ジョン・ピーターソン、グアム大学ミクロネシア地域研究センター長より「海外から見

た縄文文化」について、また、ダグラス・コマー国際記念物遺跡会議（イコモス）考古学遺産管理委員会共同委員長より「市民参加による遺跡の保存管理計画」について発表（報告）がありました。



【ジョン・ピーターソン氏】

ジョン・ピーターソン氏は、「外国の遺跡群と比べて、たくさん学ぶべきところがあった。」などの感想を述べ、また、ダグラス・コマー氏は、「世界遺産登録のために、遺跡を開発などから守る緩衝地帯（かんしょうたい）だけでなく、その外側に住んでいる人などへも配慮が必要。地元の関係者全てを巻き込んでの活動が必要である。」などと話していました。



【ダグラス・コマー氏】

国内の専門家からは、縄文遺跡の保護や活用事例の紹介、縄文文化とはどういうもの

のかなかなどの発表があり、さらに岡田康博青森県教育庁文化財保護課長から四道県が共同で進めている世界遺産登録推進の取組について説明がありました。

最後に、シンポジウムのまとめとして、縄文遺跡群世界遺産登録推進専門家委員会委員長の菊池徹夫氏が「海外の専門家から勇気をもらったが世界遺産登録へのハードルはまだ高い。我々専門家は手伝いはできるが、一番の力の源は地元の皆さん。登録に向けて一緒に頑張りましょう。」と参加者に呼びかけていました。

四季の縄文DAY 「三内丸山縄文秋祭り」 が開催されました

十月十五日（土）～十六日（日）、「三内丸山縄文秋祭り」が開催され、二日間で約四一〇〇人が訪れました。

人気の「縄文パノラマビュー」では、多くの方が高所作業車で十五mの高さにのぼり、遺跡全景や遠く八甲田山系の紅葉を堪能しました。

また、「一日まるごと縄文体験」として、イノシシの骨針での刺しゅう、ペンダント作り、火起こし体験、丸太割り体験など縄文生活を楽しく体験しました。

大型堅穴住居では壺打楽器



【縄文パノラマビュー】

ウドゥやジャンベ太鼓の演奏会があり、多くの方が演奏に耳を傾け、実際に楽器を手にしたりしました。

その他、クイズラリーが行われ、全問正解の子どもたちが景品をもらい喜んでいました。

「縄文大祭典」が 開催されました

九月十七日（土）～十九日（月）、三内丸山遺跡において「縄文大祭典」が開催されました。三日間で約七七〇〇人が訪れました。

「縄文ワークショップ」「縄文宵待ちフォーラム」「お月見コンサート」「体験学習」「縄文楽らく市」など、たくさんイベントが行われました。

このうち、十三回目となった「お月見コンサート」は、雨のため縄文時遊館「エントランスホール」での開催とな

りました。お月見のないコンサートでしたが、四百人の観客でホールがいっぱいとなり、盛り上っていました。

また、十八日～十九日は、縄文なりのきりキャンブも開催されました。悪天候のため、縄文時遊館内に九家族がテントを設営しました。また、「魚釣り体験」「縄文料理体験」など縄文人になりきって縄文生活を満喫しました。



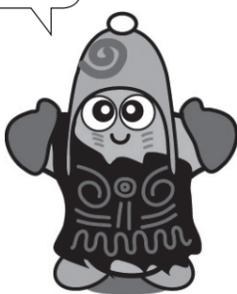
【お月見コンサート】

四季の縄文DAY 「三内丸山縄文冬祭り」 を開催します

三内丸山遺跡では、来年二月十八日（土）～十九日（日）、恒例の「三内丸山縄文冬祭り」を開催します。

人気の「大型スベリ台」「雪だるま広場」「縄文グッズ作り」などを企画しています。雪におおわれた真っ白な遺跡でみなさん思い思いの足跡を描いてみませんか。詳しい内容は後日、公式ホームページに掲載いたします。

みんな遊びに来てね！



三内丸山遺跡のご案内

休館日 12月30日～1月1日
見学科 無料

開館時間 10月～5月は9時～17時
(入場は閉館の30分前まで)

さんまるミュージアムの定時案内 10:50～、13:50～の2回行っています
(所要時間約20分)

ボランティアガイドの定時案内 1回目は9時15分から
その後は10時から1時間ごと、最後は15:30から

見学の問い合わせ先 017-766-8282 (三内丸山応援隊)

交通機関
□青森市営バス
JR 青森駅から⑥番乗り場「運転免許センター」行き
三内丸山遺跡前で下車 料金300円 約20分
□ねぶたん号
JR 新青森駅南口から左回り乗車
三内丸山遺跡前で下車 料金200円 約10分